



マイクロプラスチックを拾い集める大学生ら（28日午前6時40分頃、和泊町与和の浜）

大学生17人がビーチクリーン体験

マイクロプラスチックの影響考える

【沖永良部】日本エアコミューター（J A C）による環境保全ツアーが27日、沖永良部島であった。来島した大学生17人は、地元の海岸で漂着ごみを拾う「うじじきれい回」のメンバーとともにビーチクリーンを行い、マイクロプラスチックが自然環境に与える影響を考えた。

ツアーは、J A Lグループで取り組んでいる環境保全活動の一環。現状を知ることによって地域課題を理解し、これからの活動に役立ててもらおうと、27～29日の3日間の日程で実施された。初日は、海洋ごみセミナーや島民との交流会が開かれた。

ツアー2日目のこの日は、「うじじきれい回」として活動する竿智之さん（45）ファミリーと、和泊町の与和の浜でビーチクリーン活動を行った。参加者は「小さくて見分けがつかない」などと話しながら、マイクロプラスチックをピンセットで拾い集めた。

講話した竿さんは「細くなったプラスチックは人間には害がないように見えるが、海に漂う有害物質を高濃度で吸着していると言われている。生活の中でプラスチックを減らす方法を考えてほしい」と呼び掛けた。

鹿児島大学歯学部3年の田村真子さん（21）は「社会が抱える問題に直接触れることができた。人間によるごみは私たち自身で始末しないといけない。小さなプラスチックもみんなで集めればものすごい量になるので、一人一人ができることを考えていきたい」。熊本県の崇城大学1年で航空操縦学専攻の高橋柊吾さん（19）は「マイクロプラスチックが生き物に与える影響が分かった。生態系の良い循環につなげるためにも、ビーチクリーンなどの地道な活動が必要だと改めて思った」と話した。

ツアー3日目は、「畜産による循環の実践」をテーマに地元の畜産農家を訪問する。